



## 日本私立看護系大学協会30周年を迎えて

## 看護教育の充実・向上を目指して

日本私立看護系大学協会会長  
日本赤十字武蔵野短期大学

堺 隆弘

日本私立看護系大学協会は今年で設立30周年を迎え、7月7日に結成30周年記念祝典および講演会を開催しました。テーマは「看護教育における私学からの革新」であり、カナダのMcMaster大学Andrea Baumann先生をお招きして特別講演、さらに看護基礎教育の立場から名古屋大学の山内先生、厚生労働省の在宅看護専門官の立場から山田先生、米国City of Hope, National Medical Centerからナースプラクティショナー（NP）として実践を行っている小宮先生の講演、シンポジウムを行い、今後の看護教育の方向性を考えるよい機会になりました。

今私立大学は大変な危機に面しています。少子化の影響で進学希望者の90%が入学できる時代になり、希望者の少ない大学は軒並み定員割れを来しています。それぞれの大学は一つには受験生の確保と卒業後の指導に力を注いでいますし、一つには技術系の学科への変更あるいは新設をおこなって経営改善を図っています。その影響もあってこの数年看護学科の新設が急増しています。さらに500校を超える看護専門学校も定員割れをきたし始めている現状があります。その一部は看護大学へ転換をしていますが、これも教員の確保をはじめとする高等教育化への難題があり、簡単に転換ができない状況にあります。

平成17年には22校の看護学科の新設、転換があり、18年度も20校近くの看護学科の申請が予定されています。日本私立看護系大学協会としても平成17年には77校、18年度には90校を超える大きな組織になることが予想されています。協会にとってこれは喜ばしいことなのですが、

将来的に看護教育はどうあるべきかをここで考えるよい機会になっています。

看護教育の問題点については、日本私立看護系大学協会でも長年検討されており、多くのことが指摘されています。そのいくつかの点について考えてみたいと思います。

### 1. 看護大学はもっと増やすべきか？

現在看護学生の卒業生は年間5万人に達しています。そのうち看護大学での教育はまだ4分の1に達していません。看護教育の充実のために専門学校の1部を4年制にする試みがされています。しかしこれで十分でしょうか。他の医療職の教育と比較する場合、もっと専門学校から大学への転換を図るべきです。教育と医療は国の大きな政策であり、看護の高等教育化のために国はもっと補助、予算措置を講じなければなりません。一時的には看護教員が不足するため、条件を考慮して徐々に看護大学を増加することが必要でしょう。

### 2. 看護系大学の増加と教員および学生の質

急速な新設校の増加に伴って、既設看護大学も教員の不足、質の低下が問われています。将来的には看護教員の養成・教育・研修などによって向上させることができます。大学院をもっている大学で看護教員の教育をもっと充実させるべきでしょう。

教育の質を向上させる一つとして、新しい医療の進歩についての教育があります。看護教員に対しては言うまでもありませんが、実地臨床の指導者にも絶えず教育が必要です。教員もある程度臨床の場を経験して新しい医

療を知るために実習病院と交流することが望まれます。

一方看護学生の学力の低下は明らかであり、今まで以上に看護に対するモチベーションを高める教育が必要です。ストレスを受けた場合の対処法についての経験が少ないことは看護学生だけには限りませんが、患者とのふれあいは何よりも大切な仕事だけにコミュニケーション、他人の気持ちを考える、人間性などの問題とともに「こころ」の教育は最重要課題でしょう。うつ病など医療を要する場合は別として、心の問題こそそれぞれの私立大学の理念を活かした教育によって解決できるかも知れません。赤十字の人道教育などその一つですが、よい方法があれば他の会員校の参考になるかも知れません。

我々の大学で長年行っているPBL教育は多くの指導者を必要としますが、問題発見・解決能力を養う以上にコミュニケーション能力が高まったという結果が出ています。

### 3. 新卒看護師の看護技術の不足

新卒学生が看護技術の不熟なことはある程度やむを得ません。実地臨床の場でプリセプター制度によって段階的に取得可能であるし、いきなり「看護にも研修制度を導入すべし」というのはまだ尚早でしょう。しかし最小限度の看護技術の取得は必要です。最小限の看護技術の認識は医療現場と教育の間ではかなり差があります。また国家試験にある程度取り入れることはできますが、5万人の受験者に技術試験を行うことは不可能です。すでにカリキュラムに組み込まれているフィジカルアセスメントの内容を充実させること、卒業時に各大学で技術試験を行うなどの工夫も考えられます。

医療はチーム医療となっている現在、看護師も医療を知り、機器、薬剤を知り、診断も可能であり、さらに患者に説明できるような教育が要求されています。しかも患者に最も身近な看護師は医療ミスの矢面に立たされることが少なくありません。医療内容、機器、薬剤の知識、患者への対応は多くの医療ミスを未然に防ぐことができるでしょう。将来は米国のNPのように専門看護師が基本的な診断と医療にかかわることが望まれます。そのためにも教育の場で新しい臨床について多く教えることが必要です。

### 4. 保健師、看護師、助産師教育について

今厚生労働省が中心となって6回に及ぶ看護基礎技術の充実に関する検討会が開かれています。資料によれば保健師の地域職場への就職が減少しています、市町村、保健所への就職は平成11年1400でしたが平成17年は450に激減しています。保健所の統合と保健師の離職率が低いことにもよると思われまます。一方大学卒業生の保健師の

合格率は低下しています。とりあえず看護師の資格を取っておこうという学生が多いためにありますが、大学での保健師教育のカリキュラムが十分であるかどうかの議論がなされています。

保健師の就職先の問題以上に時代とともに保健師の立場は変わっています。つまり地域看護は今や市町村から在宅看護に移り、病院看護から在宅看護を結ぶものとして病院保健師の役割が重要視されてきています。そのため看護教育にも地域看護教育は必要ですが、保健師を認定看護師の一つとして扱ってはどうかという考えもあります。また実習場の不足の折、市町村から地域在宅看護、訪問看護へのシフトも必要でしょう。

少子化にもかかわらず、助産師の希望は多く、今の専攻科などの単独施設では間に合わず、しかも大学では助産希望の要望には応えきれないというのが現状です。一部の大学では助産のマスターコースを作っていますが、一年の専攻科でよいか、二年のマスターコースがよいかという問題は残ります。産科医の不足が続いているため、将来は助産師の守備範囲を広げる必要があります。

看護大学で看護師・保健師の教育の上に助産師のためのカリキュラムを組むことにはかなりの無理が認められています。1,2年の専攻科、大学院教育あるいは一定以上の臨床研修・科目履修で助産師の受験資格を与えるなど再考する時期ではないでしょうか。

### 5. 認定看護師、専門看護師に対する社会的評価

日本看護協会はいくつかの分野で認定看護師という資格を与えてはいますが社会での認識は少なく、医療機関での評価もほとんど得られていません。最近診療報酬の面で看護技術がとりあげられはじめています。例えば感染管理に僅かの診療報酬が認められると、医療機関では感染管理に対する認定看護師の要望が高まる。しかしながら認定看護師としての技術評価は十分でなく、待遇面での評価もほとんどありません。褥創管理、化学療法、ターミナルケアなどについても同様です。今の医療制度では診療報酬に認められている以外の看護師・助産師の技術評価はまったくないのが現実です。もっと多くの分野で看護技術の専門性を認め、米国のNPのように医療分野で自主的な判断と基本的な医療を行う能力を認めるようになることを切望します。認定看護師であるか専門看護師であるかはともかく、専門技術を持つと同時に専門技術を医療に発揮できるという公的な制度が作られるべきです。

大学経営、看護学の研究など問題はつきませんが今回はここまでにします。

# 日本私立看護系大学協会30周年記念祝典

テーマ「看護教育における私学からの革新」

日時：2006年7月7日(金)13:30~18:30(総会后)

会場：アルカディア市ヶ谷

## プログラム

- 記念式典 13:30~14:00
  - 司会 理事(事務局) 森美智子
  - 開式の辞 副理事長 溝口満子
  - 会長挨拶 理事長 堺 隆弘
  - 名誉会長挨拶 名誉会長 日野原重明
  - 祝辞 文部科学省高等教育局医学教育課長 栗山雅秀氏
  - 厚生労働省健康教育課長 田村やよひ氏
  - 副理事長 溝口満子
- 記念講演 14:00~15:00  
「Innovation in Nursing Education in Japan Aiming at Expansion of Nursing Profession」  
演者 Andrea Baumann氏 RN, PhD  
Director of Nursing Health Services Research Unit, McMaster University  
座長 溝口満子(東海大学)・本郷久美子(三育学院短期大学)  
通訳 伊藤いつ子氏
- シンポジウム 15:15~17:00  
「拡大する看護実践を支える教育の革新」  
シンポジスト  
山内 豊明 氏 名古屋大学医学部  
山田 雅子 氏 厚生労働省  
小宮 麻子 氏 City of Hope, National Cancer Institute - designated  
Comprehensive Cancer Center, LA  
司会 森 美智子(日本赤十字武蔵野短期大学)  
村井 貞子(東邦大学医学部)
- 祝賀会 17:00~18:30  
演奏 ワグネルサイエティ 慶應義塾大学



## 日本私立看護系大学協会結成30周年記念祝典に参加して

平成18年7月7日アルカディア市ヶ谷で記念祝典が開催された。約160名の方が出席され、会長の堺先生から創立当初参加校は11校であったが、この30周年で77校となったこと、それぞれが特色を生かし、連携を持ちながら看護学の向上を目指したいと話された。次に、名誉会長である日野原重明先生からは、時の経つのは早い、過去の思い出を深めるだけでなく次の30年へのスターティングポイントである。100歳まで生きるつもりであったが、この成果を見るためにもっと長生きしなくてはと話された。

そのあと、記念講演としてAndrea Baumann先生 RN, PhD (Director of Nursing Health Services Research Unit, McMaster University)による「看護教育における革新：看護の役割の拡大」が行われた。印象に残った話として、現代の看護学生は子供の頃から電子ゲームを通して、最新の技術革新を身につけている。コミュニケーション手段としてのインターネットや携帯電話により、本よりもワールド・ワイド・ウェブ上にある電子倉庫の情報へアクセスするので学び方が違う。教員は社会、医療制度、学生の要請に応えるために、指示的な教授という伝統的な役割を放棄し、自己学習に力を入れ柔軟で革新的でなくてはならない。また、クリティカルケアの焦点が病院から在宅へと移ることを反映させたカリキュラムや国民の健康ニーズに応え、患者のアウトカム改善を保証するために、新しい方法や考え方が求められているという認識が必要である。

シンポジウムにおいては山内豊明先生から「フィジカルアセスメントの重要性」ということでお話頂いた。看護職はクライアントに一番近く頻繁に接し、「からだ」というものに直接にかかわることが多い。これまで以上にチーム医療にかかわる専門職間のコーディネーターとし

て働きを期待されているからこそ、ヘルスプロフェSSIONナルとして、アセスメントし、ヘルスケアチームの行動目標を達成するために共通言語化した情報として伝えられる知識技術としてのフィジカルアセスメントは欠かせない。

山口雅子(厚生労働省医政局看護課在宅看護専門官)先生の「これからの地域看護活動の期待」では、在宅看護の移り変わり、訪問看護ステーションとの出会い、訪問看護ステーションと病院看護についてご経験をふまえて話された。その中で、日本における人口の高齢化は、他国に例を見ない早さで進行している。そのため、在宅医療は「切れ目のない医療の提供」「早期の在宅復帰」「終末期医療」など必要な課題であり、推進策が計られている。小児・難病・高齢者・終末期患者が至るところで看護の手を必要として生活していることを考えると、患者の居住を訪問するという従来の訪問看護ステーションの枠組みではその活動は収まらなくなっている。状況に応じて対応できる看護の力を支援していきたいと話された。

小宮麻子(City of Hope, National Medical Center小児科ナースプラクティショナー)先生からは、米国におけるナースプラクティショナー(以下NP)の教育と実践活動について話され、米国はNPの成長と発展により看護職の拡大化を実現させたこと。今後日本看護会・看護教育の領域に於いてこのようなシステムを活用することによって、人々により質の高いヘルスケアを提供できるのではないかと話された。

それぞれの先生方のご経験と内容の濃いご講演を頂き、会場からの質問も多く、十分に満たされた気持ちと共に、これからの看護を担う教育のあり方に、新しい示唆を得た一日だった。(報告者 東海大学 和田恵子)

# 理事会報告

## 平成17年度 第4回理事会報告

日 時：平成18年5月27日（土）14：00～16：20

場 所：日本赤十字武蔵野短期大学 本館1階 会議室

出席者：13名 委任状4名（全役員数17名）

### 【審議事項】

- 2校の改組転換を含む15校の新規加盟が申請され、承認された。なお、今年度の申請に間に合わなかった改組転換の1校は短大での継続となる。他に新設大学1校が来年度加盟予定である。
- 平成17年度協会収支決算について、井部俊子監事、深瀬須加子監事により、報告が行われ、承認された。研究助成金に関して、昨年度までは将来構想特別会計より支出計上されていたが、平成17年からは事業費より支出している。平成18年度協会事業活動計画および予算案について、各担当理事・監事より報告が行われ、承認された。
- 新たな理事校として天使大学、愛知医科大学、国際医療福祉大学、九州看護福祉大学、藍野大学が承認された。
- 理事の任期は、総会から7月末日までの理事の引継ぎ期間は前執行部が責任をもつということで、8月1日から2年間とする。内規の作成をし、理事会の任期についても内規に記載することとなった。

### 【理事交代】

昭和大学の熊田馨理事から菅原スミ理事へ交代になった。

### 【事務局の会計担当交代】

蜂谷義和から小林茂に交代した。

## 平成18年度 第1回理事会報告

日 時：平成18年8月5日（土）13：55～16：30

場 所：日本赤十字武蔵野短期大学 本館1階 会議室

出席者：13名 委任状3名 欠席1名（全役員数17名）

### 【審議事項】

- 副会長に新たに近藤潤子理事（天使大学）が選出された。（表1）
- 平成18年度事業担当者が決定し（表2）、合わせて各事業運営について意見交換が行われた。

### 3. 平成18年度研究助成事業選考結果

看護学研究奨励賞には2校3件の応募者中1件（聖路加看護大学 鈴木久美氏）、若手研究者研究助成には11校17件の応募者中7件（北里大学 香取洋子氏、帝京大学 水野千奈津氏、北海道医療大学 吉野賀寿美氏、聖路加看護大学 桃井雅子氏、慶應義塾大学 佐藤寧子氏、高崎健康福祉大学短期大学部 近藤由香氏、聖路加看護大学 小野智美氏）が選考された。国際学会発表助成への応募はなかった。

### 4. 平成18年度理事会および総会の日程を以下のように決定した。

第2回理事会 平成18年 11月25日（土）14：00～17：00

第3回理事会 平成19年 3月24日（土）14：00～17：00

第4回理事会 平成19年 5月26日（土）14：00～17：00

平成19年度総会 平成19年 7月13日（金）11：00～16：00

### 5. その他

加盟校入学試験日程等一覧は、現在作成中で9月下旬に加盟校に各4冊配布予定であることが事務局より報告された。なお、平成19年度に新設校として申請中の私立看護系大学は17校であることが報告された。

19年度に固定した事務室設置に向け、理事会の開催できる交通の便がよい場所を検討していることが報告された。

表1 平成18年度新役員

役 割	所属校	氏 名
会 長	日本赤十字武蔵野短期大学	堺 隆 弘
副会長	東海大学	溝 口 満 子
	天使大学	近 藤 潤 子
理 事	愛知医科大学	土 井 まつ子
	藍野大学	矢 野 正 子
	鹿児島純心女子大学	高 平 百合子
	川崎医療短期大学	宇 野 恵 子
	九州看護福祉大学	二 塚 信 信
	国際医療福祉大学	島 内 節 節
	産業医科大学	川 本 利恵子
	東京慈恵会医科大学	櫻 井 美代子
	日本赤十字秋田短期大学	時 光 直 樹
	日本赤十字北海道看護大学	松 木 光 子
北海道医療大学	阿 保 順 子	
指名理事	日本赤十字武蔵野短期大学	森 美智子
監 事	聖隷クリストファー大学	深 瀬 須加子
	聖路加看護大学	井 部 俊 子

表2 平成18年度事業担当理事一覧（代表者は◎）

事業活動名	担当者（所属機関）
1. 大学における教育・研究に関する事業	
1) 研究助成事業	1) ◎ 櫻井 美代子（東京慈恵会医科大学） 阿保 順子（北海道医療大学）
2) 看護師等国家試験に関する事業	2) ◎ 川本 利恵子（産業医科大学） 二塚 信（九州看護福祉大学）
3) 看護学教育の国際交流事業	3) ◎ 時光 直樹（日本赤十字秋田短期大学） 宇野 恵子（川崎医療短期大学）
2. 大学運営・経営の向上を図るための事業	◎ 高平 百合子（鹿児島純心女子大学） 森 美智子（日本赤十字武蔵野短期大学）
3. 教員の資質向上に関する事業	◎ 松木 光子（日本赤十字北海道看護大学） 井部 俊子（聖路加看護大学）
4. 学生および教職員に関する福利厚生事業	◎ 土井 まつ子（愛知医科大学） 深瀬 須加子（聖隷クリストファー大学）
5. 看護および看護学教育に関する事業	◎ 島内 節（国際医療福祉大学） 矢野 正子（藍野大学）
6. 会報・その他刊行物に関する事業	◎ 溝口 満子（東海大学） 近藤 潤子（天使大学）
7. その他の事業 協会結成30周年記念事業・事務局統括	森 美智子（日本赤十字武蔵野短期大学）

## 平成18年度 総会報告

日時：平成18年7月7日（金）10：30～13：00

場所：アルカディア市ヶ谷 3階 富士の間

出席者：138名 委任状59名（全正会員数226名）

### 【事務局報告】

開会の後、堺会長の挨拶に引き続き、新加盟校（改組転換等3校含む16校）、加盟校数（大学57校、短期大学20校、計77校）、平成17年度理事会報告、冊子作成（平成17年度年報、平成18年度名簿）について報告がなされた。

### 【審議事項】

- 平成17年度事業活動について、各事業担当理事より報告がなされ、承認された。
- 平成17年度決算報告が事務局よりなされた。
- 平成17年度会計監査報告  
井部 俊子監事より、平成18年5月24日に深瀬 須加子・井部 俊子両監事が監査を行い、適正であったことが報告された。
- 平成18年度事業活動計画について、各事業担当理事よ

り説明し、承認された。

- 平成18年度予算案について 事務局より説明し、審議の結果、承認された。
- 事業活動担当役員改選について  
理事校5校の辞退により、新たに理事校5校（藍野大学、九州看護福祉大学、愛知医科大学、天使大学、国際医療福祉大学）を選任したことの説明が堺会長からあり、承認された。
- 以下の新加盟校の代表より、大学の紹介および挨拶がなされた。  
聖マリア学院大学、高崎健康福祉大学、青森中央短期大学、関西福祉大学、埼玉医科大学、順心会看護医療大学、園田学園女子大学、中部大学、東北福祉大学、新潟医療福祉大学、兵庫大学、松本短期大学、武蔵野大学、明治鍼灸大学、目白大学、国際医療福祉大学（小田原）
- 日本赤十字武蔵野短期大学の堺理事が会長として互選された。

## 新加盟校紹介

### 青森中央短期大学 看護学科

学科長 ライダー島崎 玲子  
〒030-0132 青森県青森市横内字神田12  
Tel : 017-728-0121

2006年4月1日 青森中央短期大学に新たに看護学科が誕生しました。私たちの母体は「青森田中学園」と言い、1946年に「青森珠算簿記学院」として創立し、日本が連合国軍に敗れ瓦礫の街と化した時から学園の歴史が始まりました。当時、米国からの新しい文化としての映画が日本に普及し、着物やもんぺが主流であった日本の女性に、映画の中の洋装は大変大きな憧れとなりました。この時代のニーズをいち早くキャッチし、次に「青森裁縫学院」設立されました。これらの二つの学院は人々に生きる力を与え、珠算簿記は生活の手段となり、洋装の普及は地域の教養や文化向上として青森県に寄与して参りました。

さらに、1969年に青森中央短期大学が設立され食物栄養学科と現幼児保育学科が誕生しました。以後、社会の

ニーズと共に多くの教育施設（専門学校、短期大学、大学、大学院等）と社会福祉関連施設（幼稚園、特別養護老人ホーム）を地域に設立して参りました。

今、看護の高等教育化が叫ばれ、日本における看護系大学は既に140校を数えようとしています。看護師育成を4年制大学でという考え方は、1950年代に米国でスタートしたものと記憶しております。このような背景の中、なぜ短期大学なのかと問われる方も多いと思います。回答になるかは定かではありませんが、本学科では、3年間の教育課程で実践力のある看護師育成に力を注ぎたいと願い、スタートを決意致しました。本学科の教育理念は、建学の精神（愛あれ、知恵あれ、真実あれ）に則り、「科学的根拠に基づく、対象に適した人間性ある看護の実践」を掲げています。そのため、水平軸で科目間のつながりを強化したカリキュラムを導入し、教員間で教科目のつながりを意識した連携を図るよう努力しております。多くの保健医療福祉関連機関関係者ならびに教育機関の皆様方に大きなご理解とご協力を賜り、実践力と優しさ・思いやりのある学生を育てていきたいと考えております。

### 関西福祉大学 看護学部看護学科

学部長 松村 悠子  
〒678-0255 兵庫県赤穂市新田380-3  
Tel : 0791-46-2525

関西福祉大学は、1997年4月「人間平等」「個性尊重」「和と感謝」を基本理念として、現代社会にますます必要とされる社会福祉を担う人材の育成を目標に開学し10年を経ました。これまで<地域とともに>をキーワードに教育・研究の充実がはかられ、赤穂市を中心とする地域住民から高い評価を得てきました。更に社会の変化に伴い看護への要請も高まり、この度看護学部を開設するに至りました。開学に伴い看護教育に熱い情熱をもった教員が集まりました。新たな出発を祈念して『10年後の社会』に視点を合わせ、倫理的判断力と創造性能力に重点を置き、積極的に社会に貢献できる学生を育成しようという心一つにしております。

看護学とは人間の営みを健康という視点で学際的に追求する学問です。そして看護は優しさと思いやりの心をもって患者さまのニーズに応える実践学です。

私たちの看護学部看護学科では、この看護の理念を理論的にわかり易く教授します。現在の社会はぐんぐん変化して、人々は価値観の多様化が進み、医療の高度化は先が見えません。こうした中だからこそ人間関係が大切となり、ヒューマンケアリングという思想が主軸となるのです。当大学の3つの理念から抽出される看護のキーワードは、深い人間理解と温かい思いやり、援助技術に現れるやさしさの追求です。また、慢性的疾患や高齢者などの変化に伴い、老人保健施設や在宅医療の中での看護の役割を学び、地域に密着しながらも世界に目を向けられる資質をもち、創造性や柔軟性に満ちた看護専門職としての人材の育成を目指しているのです。

学生の皆さん

本気で将来を観る瞬間、あなたの夢は近づいてくるのです。

多くの夢を共有する仲間たちとの出会いの中、たくさんの知識を学び、思考し、行動し、そしてドキドキするような感動の日々の後に、見違えるように成長した「あ

なた」がいるのです。「あなた」は大勢の人々に必要とされ、何よりもあなた自身が自分らしく輝いているでしょう。そんな一步一步を踏み出してみましよう。

## 埼玉医科大学 保健医療学部看護学科

学部長 大野 良三

〒350-1241 埼玉県日高市山根1397-1  
Tel : 042-984-4801

本年4月からスタートした埼玉医科大学保健医療学部は、看護学科、健康医療科学科、医用生体工学科の3学科からなる新しい学部です。都心から少し離れていますが、それだけに広い敷地をもった緑美しいキャンパスです。

看護学科では、「生活している人間の理解」「看護の対象としての人間の理解」「看護専門職者に必要な基本的知識、技術、態度の育成」の3本柱のもとにカリキュラムが構成され、選択科目を多くとれるようにとの配慮もしています。1回生は、新設学部の看護学科の歴史を創る者として、先輩のいない中で苦労も重ねながら、クラブ活動に、学習にといきいき学生生活を楽しんでいます。

埼玉医科大学には、埼玉医科大学病院、総合医療センターなどの病院群があり、平成19年には学部隣接して

国際医療センターも開院されます。実習を大切にして教育したいと考えております看護学科にとりましては、誠にありがたいことです。看護部の方々とよい協力体制をとり、実習を実りのあるものにすべく準備をはじめております。

1年目の今年は、看護学科の土台作りの年と考え、学科の教授会議を中心に、全教員が一致して、話し合いを重ね、教育内容はもちろん、教員の姿から、学生が看護職としてのありようを学んでいけるように、互いに切磋琢磨していきたいと思っております。

今回、私立看護系大学協議会に入会させて頂き、本当にありがとうございます。どうぞ、スタート地点に立ったばかりの本学看護学科を、ご指導・ご支援下さいますようお願い申し上げます。



## 順心会看護医療大学 看護学部看護学科

学長 柴田 恭亮

〒656-2132 兵庫県淡路市志筑1456-4  
Tel : 0799-60-1200

「橋、水、大学」、この3つは、淡路島にとって長年の悲願だった。明石海峡大橋と鳴門大橋の開通で水問題も同時に解決された。そして最後に残されたのが大学誘致である。ところが、本年4月の順心会看護医療大学の開学により悲願の全てが実現した。それだけに地元淡路市はもとより、島全体が大学に寄せる期待は大きい。

本学の設立母体である順心会グループは、淡路島と加古川市を中心に病院や福祉施設を展開する医療法人と福祉法人の集合体である。

当然のことながら、臨地実習場はグループ関連施設が中心になる。本学の特色は、関連施設のスタッフと教員の連携や交流ができることである。具体的には、病院や施設に

対して看護専門職としての知識、技術、情報などの提供である。また関連施設を研究フィールドとして活用できるメリットもある。将来的には、臨床スタッフと教員の本格的な人事交流、すなわちユニフィケーションなども視野に入れた相互交流を推進していきたい。

花、海と橋、空気といった恵まれた自然環境、そして魚、玉ねぎなどの特産品は、淡路島の最大の魅力でありセールスポイントでもある。立地条件に伴うアクセスの悪さを補ってくれるのが、都会では考えられないような自然に恵まれた静かな学習環境である。

地元淡路島に密着した特色ある大学を目指して、教職員一同頑張っている。



## 聖マリア学院大学 看護学部看護学科

学長 井手 信

〒830-8558 福岡県久留米市津福本町422

Tel : 0942-35-7271

聖マリア学院大学は、既設の聖マリア学院短期大学（看護学科、専攻科；地域看護学専攻、助産学専攻）の教職員組織、施設・設備等を基に、同短期大学の将来に亘る発展的廃止を前提として、平成18年4月に開学いたしました。

その建学の精神、教育理念は、「カトリックの愛の精神」に基づく教育・研究の実践であり、豊かな人間性と深い教養を具え、生命の尊重、人間理解から導かれる“ケアリング”の概念を根底に、高度の看護知識と技術に裏打ちされた科学的な看護実践能力を養い、広く人間社会の健康に寄与できる篤実有能な人材育成を目的としています。

本学の母体は、キャンパスに隣接する聖マリア病院（定床1,394の総合病院、臨床実習病院）であり、昭和48年に病院付属の高等看護学院として開校、以来、地域の要請と時代の趨勢に応えながら、専修学校、短期大学へと組織変更を経て、新設4年制大学としての開学に至りました。今般の開学を新たな一歩とし、本学の特色である生命倫理、国際協力、及びロイ適応看護理論を中心とした教育研究の更なる充実と、臨床実習施設等との、より強固な協働体制の確立を図るとともに、高等教育機関として、地域連携、社会貢献についても、その責務を果たしていくものです。

私学としての建学の精神を連綿として受け継ぎ、一貫したキリスト教精神を土台に据えた教育研究の実践を目指したいと考えております。



## 園田学園女子大学 人間健康学部人間看護学科

学科長 近田 敬子

〒661-8520 兵庫県尼崎市南塚口町7-29-1

Tel : 06-6429-1201

本学の立地する尼崎市は兵庫県の東南端部に位置し、約20万世帯、人口は50万人の都市である。園田学園女子大学がある阪神間には大きな病院が多いものの、看護師養成の大学がなく期待を持って設立された学科です。めざす資格は、保健師・助産師・看護師・養護教諭一種免許。

自然光の降り注ぐ、明るい5階建ての看護学科棟は2006年2月に完成し、SONODAのシンボル、けやきアベニューの景観を取り入れたおしゃれな建物で、1階には地域に開かれた交流センター、2階と3階には実践的な実習を各分野ごとに行う最新の設備を備えた実習室、4階や5階には少人数のゼミに対応する演習や研究室が並び、学生談話室、談話コーナーを数多く設け、学生を主体とした、使いやす

い設備が揃っている。

臨地での実習も地域・社会との連携を育む数々の実習は、最新の医療設備と地域連携室など新しい機能を備えた総合病院を実習先とし、最初の病院実習となる「ファースト基礎実習」や各分野ごとの臨地実習、またSONODAだけのユニークな「ウエルネス社会体験実習」「フィールド体験実習」では、地域で生活する人々やその社会を知ることを実体験から学べるシステムとなっています。

また、同学部他学科との協働により、学べる範囲も広く、学習交流を体験することでより広い角度から他者を見つめることが出来、何より他の専門分野を持つ友人に恵まれることは、将来地域社会に根ざしたヒューマンケアを実践する上で、貴重な人的ネットワークが築けることとなっています。



## 高崎健康福祉大学 看護学部看護学科

学部長 瀬戸 正子

〒370-0033 群馬県高崎市中大類町501

Tel : 027-352-1291

高崎健康福祉大学は、平成13年に「人類の健康と福祉に貢献する」を教育の理念に掲げて健康福祉学部を設立し、平成18年4月に薬学部と、短期大学看護学科から改組転換した看護学部を新設致しました。健康・医療・福祉の総合大学を目指して生まれ変わった大学であります。

本看護学部の教育の特色としては、1. 人間としての共

感的生き方を培う：対象の人間を理解するために感性豊かな人間性と深い洞察力、信頼性を育むコミュニケーション能力の醸成。2. 看護の実践能力の育成：科学的知識や論理的思考にもとづく高度な専門的知識や倫理的判断力の基礎と、ライフステージに応じた看護援助技術の修得を目指す。3. 対象の至高の健康状態を目指して、健康教育の実践・支援ができる能力の育成。4. チーム医療における健康・医療・福祉の連携・協働について他学部との交流学习の実践。5. 国際的視野で地域の保健・医療・福祉の向上に貢献できる人材の育成：英語教育の充実と海外研修による異文化交流、などがあげられます。

## 中部大学

### 生命健康科学部保健看護学科

副学部長 石黒 彩子

〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200

Tel : 0568-51-1111

21世紀型の医療は、急性期の疾病を対象とするcure型の高度医療と、生活習慣病に代表される慢性疾患を抱える人々や予備軍といわれている人々への疾病予防を含めたcare型の地域医療とに2極分化して発展しています。中部大学生命健康科学部保健看護学科は、21世紀型の新しい医療に適切に対応できる看護師・保健師の育成を目的として生命医学科とともに2008年4月に開設されました。本学は、6学部を擁し、他学部との交流も盛んです。生命医学科との合同授業も多く生まれ、より豊かな人間性を培い、コミュニケーション能力の基礎を養うことが出来ます。

高度医療にも地域医療にも対応できる専門性と、人間

さらに本学では、開学1年目より、3年次編入生を受け入れ、独自のカリキュラムを展開し、他学部の学生との交流も活発に行われております。取得資格も保健師、看護師国家試験受験資格と、養護教諭1種の資格取得が可能です。健康・医療・福祉の総合大学の実現に向けて学生、教職員ともに切磋琢磨しております。



の尊厳を基盤とする倫理観、専門職としての自律性とリーダーシップおよびマネジメント能力などの基礎を修得させ、臨地実習によって心のふれあいを大切にした看護実践能力を高めていきます。そのために、優れた教授陣と充実した学習環境（特に学内の実習室やセルフトレーニングラボ等）を整えています。カリキュラムは、専門基礎、看護介入、看護実践、看護発展の各領域において、段階を追って学習できるように構成され、養護教諭一種免許取得の道も開かれています。当学科の特色としては、「看護実習センター」を設け、学外実習施設との連絡調整を図るとともに、セミナーを開催して教員と臨地実習指導者相互の資質の向上を目指しています。



## 東北福祉大学

### 健康科学部保健看護学科

学長 萩野 浩基

〒981-8522 宮城県仙台市青葉区国見1-8-1

Tel : 022-233-3111

東北福祉大学は、杜の都仙台に位置する福祉の総合大学として高い知名度と実績を誇っています。本年4月から子ども科学部と健康科学部が創設され、総合福祉学部と合わせて3学部となりました。

来春にはJR仙山線に本学の名称が入った駅ができ、さ

らに20年度に小規模の附属病院を計画中です。

健康科学部保健看護学科は、4月からフレッシュな大学生をお迎えし、建学の精神「行学一如」に基づき幅広い人間学を基礎に置いた、きらりと輝く看護の専門職育成に励んでおります。

教育理念は、人類の幸福に貢献でき、人々を全人的に捉え、倫理観に根ざした、ヒューマンケアの実践能



力の育成にあります。また、人々の健康問題に対処し、保健・医療・福祉を融合した「看護学」と「人と社会・環境」を統合できる高度な知識・技術を身につけられる実践教育を目指しています。

近年、社会の要請は、複雑かつ多様な医療に対応できる資質の高い看護専門職教育が求められています。そこで本学科は、学生が看護学を自ら主体的に学習する過程で、他学科とも相互連携を図り、豊かな人間性とコミュニケーション能力、科学と芸術の統合力を培います。さらに、科学的根拠に基づいた人々の生命や生活を尊重し、国際的視野で活躍できる人々を育成します。

## 新潟医療福祉大学 医療技術学部保健看護学科

学科長 渋谷 優子

〒950-3198 新潟県新潟市島見町1398

Tel : 025-257-4455

新潟医療福祉大学は2001年度に新潟県、市、地域の強い要請に基づき開学された。

わが国が世界一の長寿国となるに及び、20世紀で重視されてきた「長く生きる」と共に21世紀では保健・医療・福祉との連携社会として、「いかに良く生きる」へ。保健医療福祉分野において「生活の質」の豊かさが求められた。本学では、健康で長生きするためのひとりびとりのQOLの充足を支えていく人材、保健医療福祉分野の専門的スペシャリティを結び、チームワークによるQOLサポーターとして活躍できる人材を育成します。看護学科は開学当初よりの念願を果たし2006年4月に開設された。本学科の教育理念は、保健医療福祉分野における看護専門職としての役割を自覚し、ジェネラリストとして地域社会、将来において国

カリキュラムの特徴としては、4年間の看護師教育と保健師教育の統合を図っています。特に1年生は、7月にホテルでホスピタリティを学ぶ研修を実施し、9月には、早期看護体験実習として小人数教育を大学の関連施設にて行っています。看護学の核となる概念の理解、看護専門科目への知的関心度を高め、実践することの重要性を学習します。

また、新たな教育の動向を取り入れた科目編成を行っています。例えば、フィジカル・アセスメントやリスク・マネジメント、国際・災害看護学、感性福祉看護論、看護学教育・管理・研究等の教科目を開講し、包括的な看護実践能力の育成に努めています。

際的な場でヒューマンケアリングに貢献できる人材を育成する。カリキュラムは本学共通基礎基盤として保健・医療・福祉の連携教育を推進する教育課程を実践し、看護学科の専門科目はヘルスプロモーションを目指す健康科学としての看護学を追究し、熱意のある教員陣と豊かな自然環境に恵まれた施設です。本学科の特色では、質の高い看護学実践力を育成するため、看護の自律性・主体性・統合的判断力を身につける学習を少人数によるPBL教育方式を学科全体で取り組み、各領域に繋げる展開をします。助産課程、教員免許課程は選択とし、本学は教員と学生の共同参加において、相互交流、相互作用の学びの精神を培っております。



## 兵庫大学 健康科学部看護学科

学科長 西内 恭子

〒675-0195 兵庫県加古川市平岡町新在家2301

Tel : 079-427-5111

学校法人睦学園は大正8年聖徳太子生誕1300年記念事業として「太子日曜学校」を開学したのを皮切りに、「和の精神」を教育理念として保育、家政、栄養等の教育に携わってきた長い伝統を持つ学園です。学園の長年の夢であった4年



制大学、兵庫大学は平成7年に豊かな水を湛える加古川と多くの緑に囲まれた肥沃な地に設立され、平成18年には健康科学部に看護学科を開設して新たな歴史を刻んでいます。

看護学科では学生の個性と自立を尊重し、「和の精神」に則って感謝、寛容、互譲の気持ちを大切に人間形成に取り組んでいます。また、少子高齢社会の進展に伴い「健康」に対する価値観が多様化し、様々な生活の場で提供されるヘルスサービスには多彩で高度な知識と実践力が求められていることを受けて、人権や倫理、双方向的な社会貢献という観点を基盤に自らの能力を切り開く力を養い、既成概念にとらわれない新しいヘルスサービスを創造、実践で

## 松本短期大学

### 看護学科

学科長 長吉 孝子

〒399-0033 長野県松本市笹賀3118

Tel : 0263-58-4417

松本短期大学は信州アルプスに位置し、既存の幼児保育・介護福祉の2学科に続いて、60名の看護学科を新設しました。看護学科の特徴は、福祉に強い看護師・地域に必要とされる看護師をモットーに、看護専門識者（全専任教員18名中17名が看護職）による手作りの教育を心がけています。

看護と福祉の強い連携は、設置準備段階から準備しておりましたが、それを看護基礎教育の中で学習させるためには相当の工夫が必要です。4年制大学ならば余裕がありますが、3年制短期大学では、教育課程及び教育方法の工夫等、試行錯誤の連続であり、学生と共に、看護と福祉の精神・看護と福祉の制度・看護と福祉の方法を中心に、福祉

## 武蔵野大学

### 看護学部看護学科

学部長 宮里 和子

〒202-8585 東京都西東京市新町1-1-20

Tel : 0422-52-7952

武蔵野大学は、若者の町吉祥寺の西北にあり、82年に及ぶ歴史を持つ文系から医療系の5学部10学科・専攻、通信教育部、大学院、研究所・センターを備えた総合大学です。武蔵野の面影を残す緑の多いキャンパスは来校者の心を和ませてくれます。

本年開設された看護学部看護学科の教育理念は、看護の専門職に必要な知識や技術だけでなく、看護者としてのところ、つまり、人の「生老病死」に真摯に向き合い、喜び

きる看護のスペシャリストを育てることを目標としています。

看護教育においては看護の専門知識や技術に加えて幅広い教養科目の習得と看護の質をより向上させる看護研究を重要視しています。サポート体制としてチューター制やGPA制度（成績評価を5段階のグレードポイントで評価し、その平均値を学修成果の指標とする）も導入し、学生一人ひとりへの密度の高い学修・生活指導を行っています。

に強い看護師の育成を追及していきたいと教職員が全力投球で取り組んでいます。

第一期生は長野県在住の学生がほとんどで、実習施設や地域の基幹病院から早くも卒業生を迎え入れたいとの要望が強く、地域の看護職によせる熱い思いを実感しています。

長野県内では、地域の看護専門学校がいくつか閉校となり、それを代替する高等看護基礎教育機関の設立が必要と考えられます。本学の教育に期待が寄せられていることを実感しています。県内出身の学生が集まってくれるのも、地元で就業したいと願っているためと思われます。我々教員が地域の人々の看護や福祉について教え、学生が地域の人々から大切にされ、育ててもらえるような看護師を育成したいと考えております。



や悲しみに共感できる、慈悲のこころを兼ね備えた人材の育成にあります。

即ち、看護学部の教育目標としては4年間を通して、(1)豊かな人間性と倫理観を備えた人材(2)看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材(3)ケア環境とチームの体制の整備能力を備えた人材(4)国際社会でも活躍できる人材(5)自己研鑽し、看護実践を改革し得る人材の育成があげられます。

武蔵野大学のカリキュラムは、共通科目、学科科目を履修することによって看護師と



保健師の受験資格が得られます。それらに加えて3つの[看護選択コース]として認定心理士の資格が取得できる心理コース、患者の病状ごとに必要な薬の用法や作用はもちろん、家庭で使用する一般薬品など広く薬剤知識を学ぶ医

薬コース、学校で生徒や職員の健康管理を行う養護教諭の免許を取得できる養護教育コースがあります。学生は自分の将来を見据えてコースの自由な選択を可能にしています。

## 明治鍼灸大学 看護学部看護学科

学部長 種池 禮子

〒629-0392 京都府南丹市日吉町保野田ヒノ谷6-1  
Tel : 0771-72-1181

明治鍼灸大学は、1983年鍼灸医学に関するわが国唯一の高等教育研究機関として誕生しました。その後、医歯薬学部以外では初めての附属病院を設置し、大学院修士課程、博士課程を開設して鍼灸医学の教育・研究に努めてまいりました。2003年には、わが国で初めて柔道整復学の学士を取得できる4年制保健医療学部を、2006年4月には看護学部を開設いたしました。

本学看護学部では、「西洋医学」をベースに、「東洋医学」のエッセンスをプラスした「新しい看護学教育」を目指しています。近年、めざましい成果をとげてきた西洋医学でも克服できない疾患が多くみられるようになり、補完・代

替療法（Complementary and alternative medicine : CAM）を取り入れようとする考え方が出てまいりました。そのため本看護学部では、専門基礎科目の中に「東洋医学概論」と「東洋医学診断・治療学」を、専門科目の中に「コンプリメンタリーセラピー援助論、方法論」を開講し、次代のニーズに応じたより質の高い、そして幅広く奥行きのある看護実践能力を備えた人材を育成したいと考えています。

さらに、新築の看護学部棟には最新の医療・看護・教育機器を備え、きめ細かな少人数制教育を導入しています。本学は京都府の中部に位置し、生涯教育の拠点として近隣病院や保健福祉施設等との連携を図りながら、優れた看護職者の育成と看護の質の向上に貢献していきたいと願っています。



## 目白大学 看護学部看護学科

学長 佐藤 弘毅

〒339-8501 埼玉県さいたま市岩槻区浮谷320  
Tel : 048-797-2131

目白大学は大正12年に創立された80有余年の歴史を有する学校法人目白学園が運営する総合大学です。平成17年4月、岩槻キャンパスに保健医療学部（理学療法学科・作業療法学科）を開設し、今年度に看護学部と保健医療学部の言語聴覚学科を開設しました。本学の建学の精神は、創立者佐藤重遠が示した「主・師・親」です。この言葉は「開目抄」に記されていますが、「主」は社会に対する貢献を、「師」はひたむきに学ぶ姿勢を、「親」は家族を始め自分を支えてくれる人々への感謝の心を表し、この建学の精神こそが看護学部の教育理念となっています。地域社会に根ざした多様な健康ニーズに対応し、かつ、医療の高度化、専門化にも対応できる人材を育成する上での科学的な思考力

を身につけ、人への配慮ができ、確実な技術のできる看護師を養成するためのカリキュラムを組んでいます。総合大学であるため、看護学に限らず幅広い学問領域の教授陣を有し、学習環境にも恵まれています。求める学生像は1) 看護学に必要な基礎的な学力と、持久力を備え、探求心を持ち続けられる人、2) 人間に対して、興味・関心を持ち、自己の生活のあり方が健全で、他者に対して礼節ある行動がとれる人、3) 生涯を通じて看護の専門職としての目的意識を持ち続け、専門領域での学習を深め、地域貢献に意欲を持つ人です。新宿キャンパスには人間学部、外国語学部、社会学部、経営学部があり、看護に必要な人間、社会、情報、コミュニケーションなどの学びを深めることができます。



# 研究助成受賞論文

## ● 平成18年度看護学奨励賞 ●

### 診断・治療期にある乳がん患者の生の充実をはかる心理教育的看護介入プログラムの効果

聖路加看護大学 看護実践開発研究センター 鈴木 久美

#### I. 研究目的

乳がん患者の生存率が年々高まる一方で、治療の高度化・複雑化に伴い患者は診断後から長期にわたり身体的、心理社会的苦痛を抱えながら日常生活を送っている。しかし、乳がん患者への告知直後からの系統的・継続的な看護介入に関しての研究は殆どみられない。そこで、本研究は告知を受けた乳がん患者が危機を乗り越え、がんと治療に前向きに取り組み、自らQOLを高めて生の充実をはかるための系統的・継続的な心理教育的看護介入プログラムを考案し、その効果を明らかにすることを目的とした。

#### II. 心理教育的看護介入プログラムの作成

予備研究の結果と文献的考察を基にプログラムの目標、構成要素と内容、方法、介入時期や回数などを検討して、心理教育的看護介入プログラムを考案した。目標は、「乳がん患者が危機的状況のなかで病気や治療を適切に受け止め、それらに伴うさまざまな心配・困難に効果的に対処して、心身共に安定した状態で前向きに質の高い社会生活を送ることができる」こととした。構成要素は、①病気や治療に対する適切な認知を促すこと②身体的安定を促すこと③情緒的安定を促すこと④学習ニーズを充足することとし、方法として〈認知的支援〉〈情緒的支援〉〈教育的支援〉を用いた。介入時期は不安の強い告知後1週間前後から開始し、回数は4回とした。また、プログラムの内容の理解を促して、心身のストレスへの対処法をより効果的・効率的に身につけられるようにするために患者用パンフレットとビデオ教材を作成し、それを用いてプログラムを実施した。

#### III. 研究方法

対象は、65歳以下の初発乳がんで手術に臨む女性患者で研究の同意が得られた者とし、プログラムを適用した者を適用群、通常の看護ケアを受けている者を非適用群とした。データ収集は、先に非適用群のデータ収集をして、一定期間あけて適用群のデータ収集を行った。プログラムの適用方法は、対象としての条件を満たした乳がん患者に本プログラムを実施した。介入時期は1回目が告知後1週間、2回目が術後1週間、3回目が退院後2週間、4回目が退院後1ヵ月とし、1回の時間は60分程度で個別に介入した。測定用具は、日本版Profile of Mood States (以下POMS)、日本版Mental Adjustment Cancer Scale (以下MAC)、QOL評価質問票、研究者が作成した身体症状質問票を用い

て介入前、介入直後、介入後1ヵ月に測定した。尚、非適用群は、適用群と同じ時期に同じ測定用具を用いて測定した。分析方法は、反復測定二元配置分散分析を行った。

#### IV. 結果

対象者は、適用群20人、非適用群20人の計40人で、平均年齢は適用群48歳 (SD=7.96)、非適用群51歳 (SD=8.60) だった。年齢、婚姻状況、職業の有無、病期、術式、リンパ節転移など両群間で有意差はなかった。両群間でPOMS、MAC、QOL、身体症状について分散分析したところ、どの項目においても介入時期と群における交互作用はなく、両群で有意差はみられなかった。そこで、病期別 (早期がんグループとⅡ期以上のグループ) および術式別 (乳房部分切除グループと全切除グループ) の両群で分散分析した結果、Ⅱ期以上のグループの適用群は非適用群に比べてPOMSの抑うつ・落込み ( $p=0.022$ )、MACの前向きな態度 ( $p=0.030$ )、絶望的な態度 ( $p=0.077$ ) において介入直後、介入後1ヵ月で有意な改善あるいは改善傾向がみられた。

#### V. 考察および結論

病期別のⅡ期以上のグループの適用群においてPOMSの抑うつ・落ち込み、MACの前向きな態度と絶望的な態度で有意な改善がみられた。プログラムのなかで乳がんや治療に関する知識を教育的に提供しながら認知的支援を系統的、継続的に行ったことや、告知による衝撃、ボディイメージ変容に対する悲しみなどに対して情緒的支援を行ったことが、適用群の病気や治療に対する適切な認知を促して、それらの脅威や不安の緩和に役立ち、抑うつ・落込みが有意に改善したと考えられる。また、効果的な対処法を身につけられるように問題解決技法を用いて教育したことやがんへの付き合い方について対象者の洞察が深まるように支援したことが、個々の対処法を豊かにし、がんへの取り組みに対してより積極的な方向へと導くことができたと考えられる。これらのことから、本プログラムはⅡ期以上の乳がん患者の情緒状態やがんへの取り組みの改善に功を奏したことが示された。

#### 掲載雑誌

日本がん看護学会誌, Vol. 19(2), 2005.

## ● 平成18年度若手研究者研究助成 ●

新生児に対する母親の応答性を高める看護介入の開発とその効果に関する研究

北里大学 香取 洋子

妊婦の姿勢保持に起因する随意的制御運動に関する研究  
～3次元モデルを用いた保健指導プログラム開発の試み～

帝京大学 水野 千奈津

外来に通院する統合失調症患者に対する社会復帰プログラム実施の効果

北海道医療大学 吉野 賀寿美

助産実践能力の習得プロセス ～2つの助産教育課程の比較～

聖路加看護大学 桃井 雅子

交通事故の被害にあって入院した患者への精神的ケアに関する研究  
～心理教育的アプローチツール及び精神的ケアマニュアルの開発に向けて～

慶應義塾大学 佐藤 寧子

がん患者に対する漸進的筋弛緩法の効果に関する研究

高崎健康福祉大学 短期大学部 近藤 由香

日帰り手術に向けての幼児の自律性を親と協働して支援する看護介入プログラムが  
看護実践に与える影響 ～プログラムの臨床看護への応用を通して～

聖路加看護大学 小野 智美

## ● 平成16年度若手研究者研究助成論文報告 ●

女性専門外来における中高年女性のための看護外来ドキュメンテーションツールの開発

聖路加看護大学 博士課程 飯岡 由紀子

共同研究者：富田 美和<sup>1)</sup> 前岳 実由紀<sup>2)</sup> 草間 良子<sup>2)</sup>

1) 聖路加看護大学 2) 聖路加国際病院

### 目的

本研究の目的は、全国に急増した女性専門外来の看護の役割と機能を明らかにし、中高年女性の包括的な問題を効果的にアセスメントするツールを開発することである。

### 方法

ツール開発にむけて全国の女性専門外来にアンケート調査を行った。対象はジョンソンエンドジョンソン社が提供する女性外来検索ページに登録されている全施設(184施設)の医師と看護師とし、データは郵送法にて回収した。本研究は聖路加看護大学倫理審査委員会の承認を得て行った。

### 結果

117名から回答を得た。医師62名、看護師46名、助産師8名であり、平均年齢は43.2歳だった。平均臨床経験年数は18.6年で、女性医療での平均臨床経験3.5年だった。外来受診者は50歳代が最も多く、次いで30代40代だった。主な主訴は更年期症状、身体不調、精神的落ち込みだった。話を聴くことや話しやすい雰囲気重視し、カウンセリングを

充実させることを今後の課題として捉えていた。初診時の情報収集方法は、アンケートと専門職による問診を併用している場合が多く、概ね効果的と評価していた。半数が更年期症状やうつ症状に関する尺度を活用していた。現在収集している受診者の情報は、一般的な患者の基礎情報と月経に関する内容であった。中高年女性の健康に特徴的な情報は収集されていない傾向にあった。情報に対する重要度の回答を元にした情報項目の因子分析は、「社会的環境」「日常生活習慣」「取り巻く環境と認識」「月経状況」「睡眠障害」「診療・治療」の6因子となった。因子分析の結果を元に、患者の自記式アンケート用紙を作成した。女性専門外来では、心理社会的要因が複雑に関連している更年期症状や精神的落ち込みの患者が多いことや、メンタルヘルスクアの重要性が示されたことから、「社会的環境」や「取り巻く環境と認識」の項目の検討を重ねた。更に、このアンケートを電子カルテ上に移行できるようにテンプレートを作成した。実用性と効率性を配慮し、情報量の調整、入

力方法やカルテ上への展開形式を工夫した。

## 結論

女性専門外来の受診者の特性を反映したツールが開発さ

れ、医師を始めとした多職種間で情報が共有できるテンプレートとして開発できた。このツールの有効性を検討することが今後の課題である。

## アフォーダンス理論からみた排泄動作 一点滴スタンドによる行動の変化に焦点をあててー

日本赤十字看護大学 川原 由佳里

共同研究者：吉田 みつ子<sup>1)</sup> 谷津 裕子<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 日本赤十字看護大学

### 要旨：

「そこに山があるから登るのだ」といった登山家がいるが、これは環境が私たちの行為をアフォードしている一つの例といえる。私たちの知覚と行為は、ただ意思によってのみ働くのではなく、環境条件との関係において柔軟に変化しているし、複雑かつ高度に組織化していく。すべての障害を取り除こうとするバリアフリーの発想ではなく、障害や課題があればこそ生まれてくる行為と知覚の組織化を明らかにしようとする。私たちはこのアフォーダンスの視点に興味をもち、排泄行動に関わる看護技術に対するヒントを得るため、点滴スタンドの有無という排泄環境の諸条件が人間の知覚や行為にどのような影響を及ぼすかを探求した。

対象者は同意の得られた健康な20代から60代の男女4名であった。彼らには様式便器から4メートル離れた位置から歩いて便器に近づき、下着を降ろして、排泄し、元の位置に戻るといった動作を、点滴スタンドがない場合とある場合の2パターンで、ランダムに数回ずつ実施してもらった(倫理的な配慮から実際には肌を露出せず、排泄もしないように指示した)。その一連の動作を撮影した画像を、環境や身体内部の情報を統合して安定を保つ姿勢の働きと動作の組織化の観点から分析した。

結果、私たちが気づいたことの1つは、点滴スタンドがあるだけで組織化された行為が分割されるということである。排泄行動というのは日常繰り返して行われているデスクステリティの高い動作であり、いくつかの行為が同時平行して行われ、層化している。便器を前に半回転しながら座るという滑らかな動作は、点滴スタンドによって分割された。看護でいえば、回転しながら座ろうとする患者と立たせたまま回転しようとする看護師との息が合わず、怖い思いをする場面であろうと推測された。もう一点は、動くことによって得られる情報の重要性である。点滴スタンドにより行為が制限され、姿勢を安定させるための情報が不足する。その情報を補うための新たな行為も発見された。たとえば便器に背を向けたまま体躯をよじって便座を目で確認する、頭を下げて股の間を覗いて便座を目で確認する、座りながら腰から下に手を伸ばして便座に触れようとするなどである。

以上の結果は、人間がモノとの関係のなかで知覚や動作を通じてさまざまな情報を入手し、姿勢の保持や動作に役立てていることを示している。これらの結果は排泄の援助場面では姿勢を安定させるための情報という観点からも役立つと考える。

## ● 平成18年度研究助成応募状況及び選考結果について ●

日本私立看護系大学協会 研究助成事業担当理事 櫻井 美代子・阿保 順子

平成18年度の研究助成事業には、看護学研究奨励賞3件、若手研究者研究助成17件の応募がありました。残念ながら国際学会発表助成への応募はゼロでした。応募論文及び計画書につきましては、7月6日に開催した選考委員会において厳正な審査が行われ、看護学研究奨励賞1件、若手研究者研究助成7件が推薦されました。それらは、第1回理事会で承認されました。看護学研究奨励賞の受賞者には副賞10万円を、若手研究者研究助成対象者には助成金30万円をお送りしています。

本年度の若手研究者研究助成につきましては、独創性や看護学への貢献度の高い研究計画書が多かったため、選考委員会では例年よりも多い数の推薦を出しました。一方、研究目的と方法の整合性や研究経費の内容および倫理面な

ど研究計画書に記載されるべき内容が不十分な計画書もあり、今後は本事業の趣旨を踏まえて研究計画書の作成に関する研修会の開催なども検討していきたいと考えています。また選考委員会では、研究経費にパソコンを申請することへの疑義と、看護学研究奨励賞への応募者が日本人の場合には和文も添付することも必要ではないかなどの意見が出されており、今後の検討事項としています。

次年度の研究助成事業の募集期間は平成19年4月1日～30日です。応募要領につきましては、ニュースレターもしくはホームページ (<http://www.spcnj.jp/support/index.html>) 等をご覧ください。多くの方々からのご応募をお待ちしております。

## 事務局からのお知らせ

当協会では毎年、加盟校教員を対象にFDセミナーを開いております。参加ご希望の方は、当協会ホームページ“事務局からのお知らせ”の参加申込み方法をご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。

### 第7回 日本私立看護系大学協会セミナーのご案内

期 日：2006年11月11日（土）10：00～17：00

会 場：聖路加看護大学

アリスC.セントジョン メモリアルホール

#### プログラム

##### ○午 前

平成15年度 研究助成者6名より研究報告の発表

10：00～11：45

1) 造血細胞移植後患者への外来看護支援体制確立のための基礎調査

聖路加看護大学 外崎 明子

2) 心不全患者のQOLの改善を阻害する因子の解明に関する研究—年齢、家族構成からの検討—

藤田保健衛生大学 柴山 健三

3) 母子同床における早期乳児の睡眠・覚醒の特徴と乳幼児突然死症候群の因子探索

聖路加看護大学 江藤 宏美

4) 訪問看護ステーションにおけるケア提供の実態及び

看護職員の困難感と関連要因に関する研究

自治医科大学 田中 幸子

5) 中小規模事業場労働者のストレスと健康に関する介入研究—メンタルヘルスサービス開発のためのアクション・リサーチ—

茨城県立医療大学 池田 智子

6) 民間非営利組織を基盤とした保健活動—保健師の新たな活動の場をさぐる—

東邦大学 宮崎 紀枝

##### ○午 後

基調講演 12：45～14：15

テーマ：看護系大学教員の自己研鑽のあり方（同時通訳あり）

講 師：Kathleen Knafel,

フォーラム 14：25～16：45

「学生実習の臨床効果：学生臨地実習を引き受けて現場はこう変わった！」

各発表者の発表後、フォーラム参加者（会場内参加者全員）でテーマについて討論

フォーラムでの発表者のご応募をお待ちしています。

ミニコンサート 16：45～17：00

懇親会 17：15～18：30

（於 聖路加看護大学ラウンジ 立食パーティー）

## 編集後記

日本私立看護系大学協会が設立され30周年、その節目の記念事業を終えました。そして7月の総会で承認された新理事により新たなステップを踏み出そうとしています。

看護系の大学・学部学科の新設により加盟校も毎年増え続けており、看護大学はその約半数を私学が占める時代になってきました。30周年式典のメインテーマは「看護教育における私学からの革新」でした。私学だからこそできることにチャレンジしてゆけば道は拓けると、堺

隆弘会長を先頭に様々な事業が計画されています。

このニューズレターは、本会のホームページと並び、会員の皆様にそのような協会の動きをできるだけお届けしたいと思っています。発行部数も格段に増えてきていますので編集委員一同気を引き締めて編集作業を進めてまいりました。会員の皆様からの投稿やご意見などもお寄せいただければうれしく思います。

東海大学 溝口満子

### 日本私立看護系大学協会会報 第16号

発行者：日本私立看護系大学協会

〒180-8618 東京都武蔵野市境南町1-26-33 日本赤十字武蔵野短期大学C館内

TEL 0422-39-5295/FAX 0422-39-5296 E-mail jpnocs@jade.dti.ne.jp

編集責任者：溝口満子 近藤潤子

#### 編 集

東海大学健康科学部

石井美里

佐藤朝美

東海大学医療技術短期大学

熊谷智子

印刷所

港北出版印刷株式会社